

指導者の無活動と裏切と降服とは遂に然罷業を敗北に終らしめたのである。この敗に英國総罷業の敗北は石炭及び油翼の指導者の無活動と裏切と降服とにあるので即ち日和見主義的改良主義指導者の敗北であつて、然罷業の無力でも亦労働階級の全階級の団結の無効でも何でもないのである。此の英國総罷業の敗北と、英招半議の敗北とを膨大な大衆は、階級的連帯責任に燃えてゐたに反し組合総評議会の指導者の裏切と降服で敗北したのであるが、英招の場合は一英招若しくは一組合を以て此の半議に連帯責任を感じてゐた丈で、他の労働団体に及ぶ組織労働者及一般未組織大衆は何等連帯責任を感じたことが敗北の大衆を象徴である。之れは非べしむべし事であるが、事象である。或るいは反問するのである。色々の団体から激励電報が来たではないか。然し激励電報は悪いものではな、が、眞の階級的連帯責任は電報だけでは全無ではない。否、寧ろ激励電報は第二義的なもので、その所謂階級性は物質的、精神的に半議団を援助することである。

一労働団体に加へられ、壓迫は全労働階級に加へられる壓迫であるが、全労働階級の資本家に反対して立つことである。更に平易に云へば、労働階級が資本家・官吏の協同戦線に對して労働階級の協同戦線を見つけた。労働階級の協同戦線に通用することである。併し階級を職業組合的、群小割的の偏見の支配してある我が国の労働組合運動は、かゝる階級的行動を今回の争議に於て發揮し得なかつた。之は我々労働組合運動の缺陷である。此の缺陷は目的のゴブの如きもので、これがあるが爲に我々の労働組合は可能な範圍に於ける十分な威力を發揮することが出来ないのである。故に此の職業組合的、群小割的の偏見は、我々労働階級の階級闘争と生活向上の障礙物がある云ふことが出来た。此の偏見を除去し得る手段は、我々労働組合を産業別的結合同一統一するより外に手段はないのである。

結論

我々労働階級の結論は斯うである。現在の我々の資本階級は労働者の僅少な生活改善にも譲歩をせしめ、徹頭徹尾労働者の生活低下をのみ心掛け、大資本と官吏の擁護の下に個々の戦線に於て労働者の闘争を打ち破つてゐる。此の組織的な資本の攻勢を前にして、労働階級の個々の闘争は甚だ弱力に微弱であり、常に敗北を運命づけられてゐるが、労働階級の生活改善を維持改善するにはどうしても、全階級的に團結しなければならぬ。